

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

アメリカ人と日本人の人間関係の作り方には違いがある。アメリカ人は人と関わる際に、相手を説得し、自分の意見を通すことを重視する。(1) **エ**、日本人は相手の意向を知って、場の雰囲気をよくすることを重視する。(2) **オ**、日本人はむやみに自己主張をしない。では、(3) **ウ** 両者の人間関係の作り方にこのような違いが生ずるのであるか。それは両者の、自分というものへの認識が違っているからだ。アメリカ人は、自分を社会や環境からの影響を受けない独立したものと考える。一方、日本人は、自分を社会との関係の中で成立するものと考え。(4) **イ**、どちらの自分への認識のあり方が正しいのかというのは愚問である。かつては、日本人は欧米人に比べて劣っているという前提に立つ論がよく見られたものだが、価値観の多様化が叫ばれている現代においては、違いを違いとして冷静に認識することが大切である。安易な序列化には(5) **ア** 意味がない。

- ア 全く    イ ちなみに    ウ なぜ    エ だが    オ だから
- (1) **エ** (対立する内容)    (2) **オ** (原因から結果)    (3) **ウ** (疑問の投げかけ)
- (4) **イ** (関連する内容をつづけて補う)    (5) **ア** (くない、とセット)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～ケから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「隣の貧乏は鴨の味」ということわざがある。すなわち他人の不幸は自分の優越感を満足させるということだ。これと似た意味を持つドイツ語の単語に「シャーデンフロイデ(Schadenfreude)」という言葉がある。心理学ではこの「シャーデンフロイデ」を、自分より劣っている他者と対比する「下方比較」によって生じるものとする。(6) **キ**、自分よりも成績が下のものを見て喜び、ということがこれに当てはまる。逆に、自分より優れた他者と対比する「上方比較」によって生じる感情が「妬(ねた)み」である。自分よりも成績が優秀なものを憎く思う感情はこれである。(7) **カ**、仮にあなたが極めて成績が優秀な



学生であったとする。あなたは、(8) コ、他の学生から成績優秀であることによって「妬（ねた）み」を受けることもあるかもしれない。その場合、あなたがするべきことは、自分より成績の下の者を見下して、自分の優越感を満足させることではない。(9) ク、積極的に自分の失敗談を話すことなどをして、周囲にシャーデンフロイデを感じてもらおうのがよいだろう。(10) ケ 自分のシャーデンフロイデより、周囲のシャーデンフロイデを満たすということだ。

カ きて キ 例えば ク むしろ ケ つまり コ もしかすると

- (6) キ (例をあげる) (7) カ (話題を変える) (8) コ (くかもしれない、とセット)  
 (9) ク (どちらかというど) (10) ケ (まとめて言う)